

＜ もくじ ＞	
1. 第5回研究会合同イベント「人生100年時代を豊かに生きるためのICTの可能性～シニアの活用を支えるサポーターの役割とは？」(仮) 開催のお知らせ	1
2. シニア社会塾：「連続講座」第3回の報告	1-2
3. 第5回シンポジウム「あれから8年～わたしたちはフクシマを忘れない～二点居住という生活のかたち」の報告	2-3
4. 研究会からのお知らせ	3
5. 各研究会の概要報告	4-5
6. 事務局からのお知らせ	5

1. 第5回研究会合同イベント「人生100年時代を豊かに生きるためのICTの可能性～シニアの活用を支えるサポーターの役割とは？」(仮) 開催のお知らせ

高齢期は、虚弱化、家族の介護など様々な理由で社会との様々なつながりが縮小していく時期といえます。近年ではつながりを失うことが喫煙よりも健康度を下げることが指摘されています。人生100年時代ともいわれる長い時間、いかにつながりを維持していくかが重要な課題といえます。

「シニアのICT活用研究会」(澤岡座長)が担当する第5回研究会合同イベントでは、豊かに歳を重ねる為にシニアにも普及著しいICT(インターネットやモバイルなど)がもつ可能性を論じつつ、総務省の推進するICT活用推進委員を一つの視点に、これを支えるサポーターの役割を考えます。

◆基調講演 「(仮)人生100年時代を豊かにするICT活用推進委員」
犬童周作(総務省情報流通振興課 課長)

◆先行事例紹介

◆司会 澤岡詩野(当学会理事・ダイヤ高齢社会研究財団)

1) 日時：2019年3月16日(土) 14:00～16:00(受付は13:30から)

2) 会場：東京家政学院大学三番町校舎1214室(市ヶ谷駅徒歩8分)

3) 参加費：1000円(学生：500円)

※シンポジウム終了後に1時間程度茶話会(無料)を予定しております。

4) 申込方法：3月8日(金)までに、お名前、連絡先、茶話会への参加の有無を
e-mail・電話・FAXでシニア社会学会事務局までお申込みください。

事務局(月・水・金)：電話・FAX 03-5778-4728 e-mail: jaas@circus.ocn.ne.jp

2. シニア社会塾：「連続講座」第3回の報告

◇連続講座テーマ：「持続可能な超高齢社会 ～安心の未来に向けて～」(計3回)

2018年度連続講座第1回、第2回についてはすでに本ニュースの231号と232号でお知らせしましたが、12月1日に第3回が開催され、全3回すべてが終了いたしました。

◇第3回講座の報告と参加者の感想（アンケート回答より）

第3回講座：竹信三恵子（ジャーナリスト・和光大学教授）『働き方改革』で日本は幸せになれるか（12月1日）。竹信三恵子さんは、今年の6月に成立したいいわゆる「働き方改革一括関連法案」の内容を、ILOの職務評価基準、働く人の健康確保などの観点から細かく検討し、その改革の中身について、「日本型の同一労働同一賃金」における正規労働者と非正規労働者間の格差の維持の可能性と高度プロフェッショナル労働者の過労死水準の残業時間の容認、高齢者、教員、地方公務員などの労働条件の不安定の合法化などの問題点を指摘されました。参加者は、それぞれの立場から自分自身や身の回りの働く人の姿を例に挙げながら、竹信さんの解説に対して賛同や反論を含む様々な意見を述べ、活弁な議論の場となりました。



感想1：いろいろな視点、立場で、問題やデータを扱う場に出ることが久しぶりでしたので、新しい感覚でした。様々な環境の人の意見を交わすということは大変難しいことだなと感じました。目指す議論の方向をもっと確認すればよかったです。講義を伺うという立場に専念すべきだったのかもかもしれません。議論を交わす場ではなかったと反省しています。大変勉強になりました。ありがとうございました。（50代・女性）

感想2：これからの若者の労働人口が減り、元気な高齢者も働かざるを得ない時代に来ているのかなと思う。厳しい社会に不安もある。（80歳以上・女性）

感想3：働き方改革の正体、問題を指摘されておられ、勉強になりました。それらの課題をどうするか、政策論議が足りないように感じた。若い人に期待する日本の将来が心配である。改革で労働生産性がUPし、福祉や賃金UPになって、働く意欲につながってほしいと思う。シニアの労働のあり方も低賃金政策に利用されないようにしない点の指摘が参考になった。（70代・男性）

3. 第5回シンポジウム「あれから8年～わたしたちはフクシマを忘れない～<二点居住>という生活のかたち」の報告

本年12月8日（土）に開催されました、当学会「災害と地域社会」研究会と早稲田大学総合人文科学研究センター<現代社会の危機と共生社会創出に向けた研究>部門との共催、「わたしたちはフクシマを忘れない」シンポジウムは今回で5回目になりました。早稲田大学戸山キャンパスの大きなAV教室に集まった参加者は、司会、登壇者を含めて75名でした。



今回は、袖井孝子会長の挨拶に引き続き、第1部で板倉真琴監督「ひとと原発」（第5回シニア社会学会シンポジウム・バージョン）が上映されました。浪江町で被災し避難を余儀なくされた方のインタビューや、東電社員約20名が放射線で汚染された家屋の片付けをする様子が紹介され、生の動画映像の訴求力の大きさを再確認する出だしとなりました。すでにお知らせした通り、このドキュメンタリー制作を進めている板倉監督に、シニア社会学会でのイベントで募ってきたフクシマ被災者への義援金の一部を寄付させていただき、監督から「大変励みになる」との謝意の表明がありました。

第2部では、今回のテーマ、被災者が余儀なくされている<二点居住>の実態について、浪江町の当事者である大坊雅一氏、富岡町の二俣公子氏、田中美奈子氏から話題提供があり、3.11から8年近く経った現時点でも人生の選択に悩んでいるフクシマの被災者の心の揺れ幅の大きさが参加者にも強く印象付けられました。今回は、シニア社会学会の会員や一般の方々も多く参加されましたが、企画者の一人である川副早央里さんの授業を履修している20歳代の学生約30



名が参加されており、若い世代がフクシマの被災当事者の生の声に触れて大変感銘を受けた様子が、アンケートの結果からもうかがえます。

コメンテーターの早稲田大学浦野正樹教授は、複数拠点に関りながら生活するスタイルはこれまでの日本の地域にもあるが、これからのフクシマの被災者の生活のあり方、また受け入れる側の地域の生活のあり方とともに、これからの日本の地域社会の生活条件の変化を促す要因になる可能性もあると示唆され、われわれ自身の問題として議論を継続していく必要性を訴えられました。

参加者の多くが、フクシマの個々の当事者が帰還をめぐる抱える苦渋の選択の微妙な違いにも共感しつつ、一定の解決の方向が見えない現状に戸惑いを覚えながら、今後も継続してフクシマの現状を注視していくことの意義を再確認するシンポジウムとなりました。(長田記)

4. 研究会からのお知らせ

(1) 第61回「シニア社会のリテラシー」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2018年12月20日(木) 15:00~18:00
- 2) 場 所：早稲田大学・国際会議場4階第6共同研究室
- 3) テーマ：一ガルブレイズ著『豊かな社会』を読んで「年齢効果」を考察する—
- 4) 発表者：大下 勝巳
- 5) 参加費：300円

※ お問い合わせは、島村 (ken-sima1941@jcom.home.ne.jp) 迄お願い致します。

(2) 第28回「シニアのICT活用」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2018年12月21日(金) 14:00~16:00
- 2) 場 所：(公財)ダイヤ高齢社会研究財団会議室
新宿区新宿一丁目34番5号 VERDE VISTA 新宿御苑 3階 <http://dia.or.jp/access>
- 3) 話題提起者：八巻 睦子(シニア社会学会会員/ALSOK)
- 4) テーマ「ICTが支えるシニア向け安全安心サービス
～セキュリティ会社の事例を中心に～」
- 5) 参加費：500円

※ 参加のご連絡は、前日までに森 moriyasu@ied.co.jp までご連絡ください。

(3) 第8回「ライフプロデュース」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2019年1月11日(金) 18:00~21:00
- 2) 場 所：内幸町 日本プレスセンター内、日本記者クラブ9F ラウンジ
- 3) テーマ：「シニア期における新しい関係性作り、及びネットワーク作り」
- 4) 参加費：500円

※ 2018年12月は休みです。お問い合わせは中村 (Nakamura@jass.jp) までお願いいたします。

(4) 第53回「災害と地域社会」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2019年1月21日(月) 18:00~20:00
- 2) 場 所：早稲田大学戸山キャンパス39号館6階第7会議室
- 3) 報告者：小林秀行(明治大学専任講師)
- 4) テーマ：「日本の災害復興は何を見て、何を見なかったのか
～『復興とは何かを考える連続ワークショップ』の議論から」
- 5) 参加費：当分の間頂戴しません。

※ お問い合わせは、福原 (fukuhara@jaas.jp) までお願いいたします。

5. 各研究会の概要報告

(1) 第60回「シニア社会のリテラシー」研究会の報告

1) 日 時：2018年11月22日（木） 15:00~18:00

2) 場 所：早稲田大学・国際会議場4階第6共同研究室

3) テーマ：「サードプレイス」について

4) 発表者：吉田 隆、土岐 啓子

吉田さんは「印西市に見るサードプレイス」とのタイトルで発表された。前回研究会で発表の薄井滋さん作成のサードプレイスのポジショニングマップを携行し、ご自身が居住する印西市の社会福祉協議会を取材され、印西市のサードプレイスと思われる活動をリストアップし発表された。

土岐さんは「私のサードプレイス」とのタイトルで発表された。かつて自らの居場所として充実した時と場と空間であった「表参道の“たまり場”」がいま思えばオルデンバーグのいうサードプレイスであると思うこと。次いで「地域での活動」を紹介され、最後に「今後の私の“居場所”ーサードプレイス」としての思いを述べられた。

活発な意見交換の後、濱口座長はコメントとして、いま何故「サードプレイス」という言葉が抵抗なく受け入れられているのかを社会学の見地から述べて見たいと言われ、コミュニティの第1次集団、アソシエーションの第2次集団では収まらなくなったこと。そして21世紀は「年齢効果」の時代であると言われた。（島村記）

(2) 第114回「社会保障」研究会の報告

1) 日 時：2018年11月28日（水） 18:00~20:00

2) 報告者：川村匡由(武蔵野大学名誉教授・シニア社会学会理事)

3) テーマ：防災福祉で「助かる命」「助ける命」～新たな社会保障の概念と政策・活動～

4) 会 場：日本労働者協同組合連合会 会議室

東池袋1-44-3 池袋I SPタマビル 8階

周知のように、日本は有史以来、各地で地震や津波、台風、豪雨、洪水、河川の氾濫、土砂災害などの風水害、火山噴火、また、最近では原子力発電所事故が各地で相次いでいる。

ところが、肝心の社会保障の概念は1950年、社会保障制度審議会（現社会保障審議会）が年金保険や医療保険、雇用保険、労災保険からなる社会保険をはじめ、社会福祉、公衆衛生および医療、老人保健、恩給、戦争犠牲者援護、住宅対策と雇用対策からなるとし、その後、2000年に介護保険が追加されるなど一部手直しされたものの、基本的には戦後約70年経った今も変わらない。

しかし、社会保障の概念は日本国憲法第25条にもとづき、国民の生存権を保障すべく、政府および自治体の公的責任としての公助であるため、国民の生命、財産、生活に直結する災害対策も加えるべきである。すなわち、年中行事化し、事後措置に終わっている災害対策を事前措置として取り組むべく、政府および自治体の公助を基本としながらも、国民の自助や互助はもとより、社会福祉協議会や福祉施設、医療機関、企業なども互助、さらには被災者や被災地の支援など共助に努めるべく、地域福祉と地域防災の融合による「防災福祉」を追加概念化し、地域福祉（活動）計画と地域防災計画の一体化によって防災福祉コミュニティを形成すべきである。

具体的には、公助では“縦割り行政”を是正し、対米従属や政官財の癒着による公共事業よりも国民生活を最優先した政治に転換する一方、自助では居住地の地盤や地形、住宅および周辺環境の危険箇所やハザードマップのチェック、避難経路・避難場所の安全の確認のうえ、災害時、自分の命を最優先して避難する。そのうえで家族や知人、友人の救護、また、避難所の運営への協力などの互助、および被災地への義援金や支援物資の給付、災害ボランティアなどの共助に努め、防災福祉コミュニティの形成、さらには防災福祉国家の樹立につながればと念願している。

なお、有事の際、核兵器の燃料に転嫁されるおそれのある原発は廃炉以外にない。(川村匡由記)

(3) 第7回「ライフプロデュース」研究会の報告

- 1) 日 時：2018年11月30日(金) 18:00~21:00
- 2) 場 所：内幸町 日本プレスセンター内日本記者クラブ9F ラウンジ
- 3) テーマ：「死ぬまでにしたい5つのこと―①会いたい人に会う②伝えたいことを伝える③やりたいことをやる④身辺整理⑤人生を振り返ってみる」の5項目の中から一つを選び、記述せよ。
- 4) 参加者：8名 柴田、三橋、若井、庄司、中村、小平、寺本、皆川(敬称略)(80代から50代まで、女子2名 男子6名)

「人生100年時代」を生き抜くには、各人の人生観、生き方や価値観が色濃く反映される。世代や男女間によってもまた、大きな差異が感じられた。終い支度から、会いたい人に会うなど、ザックバランな本音トークで吐露された5項目にこだわらない「残りの時間をどう使うか」の決意の一部を要約してみると―。

大卒直後に希望していた米国留学を父親に反対されて諦めた女性は、二人の子供が社会人になったのを機に青学大大学院挑戦・修了し、「今からボストンの大学に留学したい」。80代の最長老は「人生やり残したことはない。生前葬をやりたい」と。80歳を前に、依然大学院を卒業せずに哲学の勉強・研究活動を続けている老学徒は「過去を気にしない。やりたいのは自分の悪習慣見直し、まず一日一箱のタバコを止める。カミさんの遺品整理、自分がやってきた悪行を懺悔したい。騙されて多大な借金を負わされた親父のリベンジも」。さらに「伝えたいことを伝える」と発言する女性は「後に続く世代の灯台の灯りになる」「いつも瑞々しい”旬な婆さん”になる!」との決意を。「せめて”身辺整理”はしておきたい。その上で『旅』でもしようかな。単に旅行ではなく、その場所の歴史、暮らし、仕事、人との出会いなどを含めて、見知らぬ『世界』をそぞろ歩きしたい」男性。その一方で、「やりたいことどころか、やらねばならないこと」に頭を悩ます男性もいる。かつて父親が購入した土地の処分と、もはや空き家同然になっている実家をどうするかである。「ともに社会問題になっている事例に相当する課題、この研究会の皆さん是非とも助言をお願いします」と懇願していました。

(詳細は「ライフプロデュース」研究会のブログを御覧願います)

(皆川記)

6. 事務局からのお知らせ

(1) 事務所移転について

前号でお知らせしましたが、当学会事務局は11月末にナカヤビルに移転いたしました。旧事務局から徒歩3分で、電話番号とFAX番号は移転後も変わりません。新住所は、下記の通りです。これまでのパールビル4階の事務局は11月28日(水)をもって閉室し、新事務局は11月30日(金)から開室いたしました。

(2) 冬季休業のお知らせ

事務局は、本年12月26日(水)~2019年1月4日(金)まで休業です。新年度の事務局は、1月7日(月)から開室します。

一般社団法人シニア社会学会・事務局(月・水・金オープン)
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-27-4 ナカヤビル202
電話&FAX:(03) 5778-4728
eメール: jaas@circus.ocn.ne.jp URL: <http://www.jaas.jp/>